令和７年度石狩管内指導農業士・農業士会視察研修会報告

令和７年６月５日、令和７年度石狩管内指導農業士・農業士会視察研修会を実施しました。

今回の視察研修は、江別市の「えみくる」に「ISS北海道事業協同組合」の方をお招きしての意見交換会と、同じく江別市にある「フラワーテクニカえべつ」の施設を見学させていただきました。今年度は49名が参加し、そのうち札幌市から新規就農者が1名、道央農業振興公社と石狩市から合わせて12名の農業研修生が参加していただきました。また、当会会員からは指導農業士13名、農業士７名が参加しました。研修先の移動は昨年同様バスでの移動でしたが、大型バスがほぼ満車状態となり、車内は活気に溢れ大変賑やかでした。バス内で行われた開会式では、今年の２月に当会の会長に就任された、恵庭市の長谷川会長の挨拶から始まり、石狩振興局産業振興部長の挨拶、参加者の自己紹介と続き、短い車内での移動時間ではありましたが、交流が深まりました。

バス内での会長挨拶

視察先1カ所目は、「江別市都市と農村の交流センターえみくる」に、江別市の「ISS北海道事業協同組合」の藤城代表理事、石田専務理事、七斤（アシン）職員の３名にお越しいただき、外国人技能実習生の受入について説明をしていただきました。「実習生ってどこの国の方が多いの?」「言葉は通じるの?」「実際のところ給料はどのくらい?」等と言った質問が飛び交っており、それに対して組合の方が懇切丁寧かつリアルな回答をしていただき、会場は大いに盛り上がりました。

えみくるでの説明会

視察2カ所目は、「フラワーテクニカえべつ」で、ブロッコリーやレタス、キャベツ等の育苗をしている施設です。農家さんたちが購入している苗が、どのようにして作られるのか、職員の方に播種機が稼働する様子を見せていただきました。普段目にすることのない機械が、スマートに苗を植えていく様子に、参加者の目が釘付けになっていました。

フラワーテクニカえべつでの集合写真

視察研修会終了後には札幌市のすすきのに移動して交流会が行われました。今年度の参加者は46名（参加率は驚異の93%！）で昨年よりも人数が大幅に増えました。地域・年齢・性別の垣根を越え、農業に携わる方々の貴重な交流の場となり、終始笑い声で満ちあふれていました。今年は、視察先が江別市だったため、午後からの開催となりましたが、あっという間に時間が過ぎていったように感じました。参加者のみなさまお疲れ様でした。

（石狩管内指導農業士・農業士会事務局）